

令和3年度 より良い学校づくりを目指すアンケート結果と次年度の方向性について

11月末に実施した標記アンケートの結果の概要についてお知らせいたします。今年度の保護者アンケートの回答率は78.8%でした。今年度よりweb回答を併用した結果、回答率が令和2年度比で+10.8%となりました。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

学校では、職員による自己評価や保護者の皆様や生徒の意見を総合的に考察し、次年度（令和4年度）の教育活動の方向性についても検討しましたので、併せてお知らせします。

【グラフの表示について】

凡例			
A(よくあてはまる)		B(ややあてはまる)	
C(あまりあてはまらない)		D(まったくあてはまらない)	

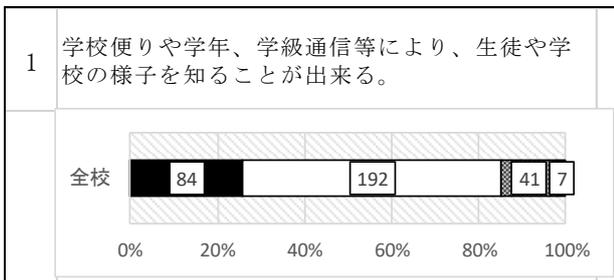
注1：設問文の横の数字は保護者アンケート及び生徒アンケートにおける設問番号を示しています。

注2：グラフ内の数字は、回答した人数を表しています。

注3：文章中の%は四捨五入した数値で説明しています。

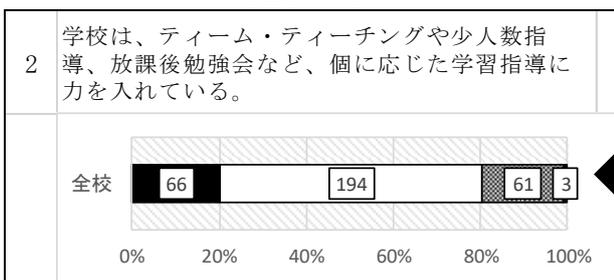
【アンケート結果と考察】

<保護者回答>

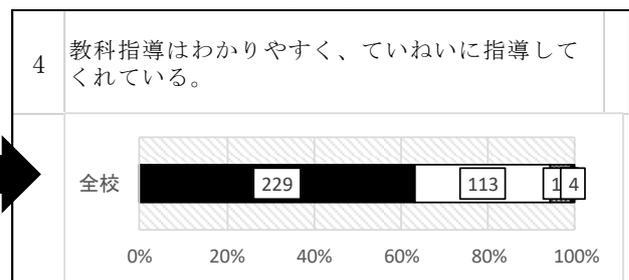


85% (前年度比+1%) の方から肯定的評価をいただきました。今年度途中からは、迅速かつ確実な情報伝達を目的に、学校便り等の全校共通の配付文書については、データ配信させていただくようにしました。配信文書へのお目直しにご協力をお願いいたします

<保護者回答>



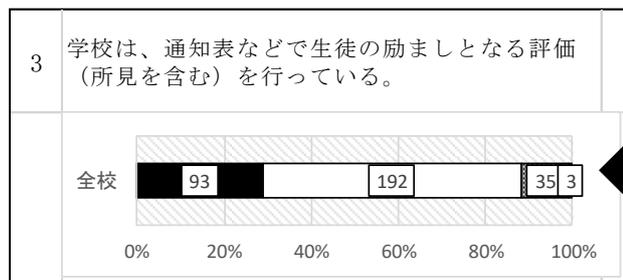
<生徒回答>



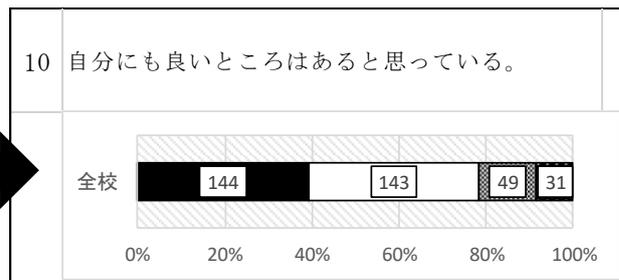
今年度、全ての教科において、「話し合い活動」を効果的に盛り込む等の授業改善に努めてきました。また、本校では、全学年の数学科の授業において、主に授業を進める教員と生徒に個別に対応する教員が役割分担をして、子どもたちの個別の課題に応じた支援を目指す「ティーム・ティーチング」を行っています。そして、2学年・3学年の数学科の授業において、1学級を2グループに分ける「少人数指導」も行っています。これらの取組が94%の生徒の肯定的評価につながっていると考えます。さらには、今年度途中からは学習指導員を配置し、放課後勉強会での支援の充実を図りました。

なお、数学科における指導体制等の取組が次年度も継続できるよう、現在、教育委員会へ人員配置を要望しているところです。

<保護者回答>



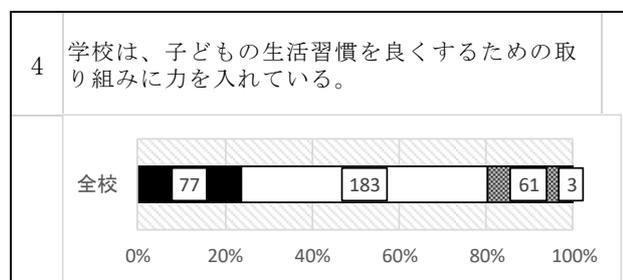
<生徒回答>



生徒の自己肯定感（自らの価値を肯定できる感情）を高めることはとても重要です。本校では今年度「振り返り」を重視し、子どもたちに自身の良さに気づかせながらより良い行動を促すことを目的に、活動後に「振り返り」の機会を与えることを意識して教育活動を展開してきました。その結果、生徒の「自分にも良いところがある（自己肯定感）」の数値は、78%で前年度より改善（前年度比+4%）しましたが、いまだ2割以上の生徒が「自分の良さ」を実感できていない現実があります。

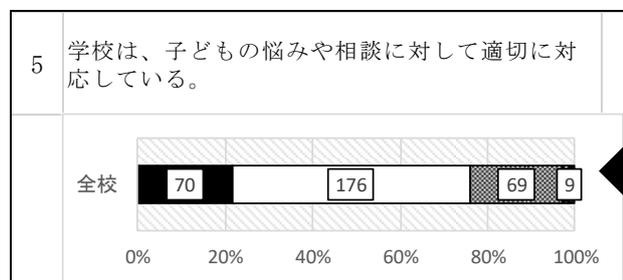
「自己肯定感」を高める土台は「認める」こと、「自己選択」の機会を与えることです。次年度は「良さを伸ばす」に教育活動を重視していきます。

<保護者回答>

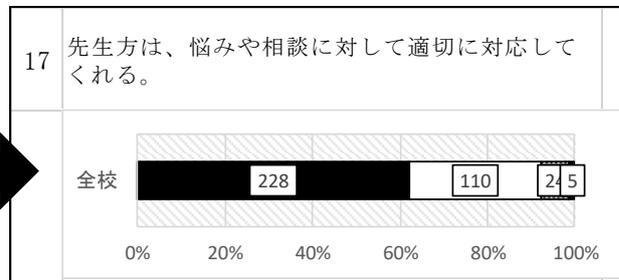


肯定的評価が80%（前年度比-4%）でした。学校では、子どもたちの社会と向き合える力（就職や進学において求められる習慣）が伸びるよう支援を行っていますが、基盤は家庭生活です。早寝・早起き・省メディア利用、他者を尊重した関わり等々、ご家庭との連携に努めていきます。

<保護者回答>

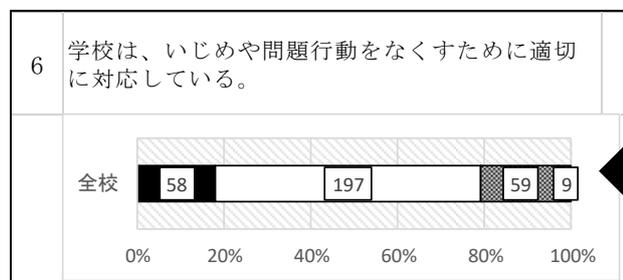


<生徒回答>

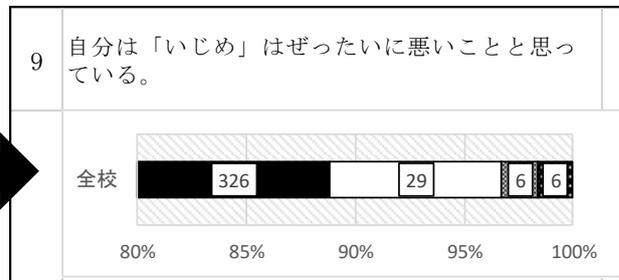


保護者の方の肯定的評価は76%（前年度比-3%）でした。一方、生徒の肯定的評価は92%（前年度比+1%）でした。お子さんの様子で気になることがありましたら、随時担任にご相談ください。

<保護者回答>



<生徒回答>

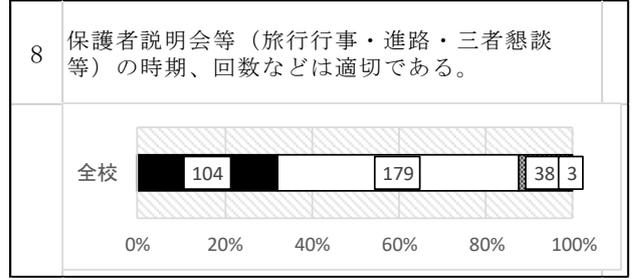
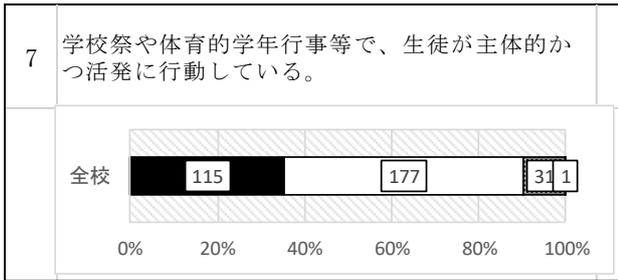


保護者の方の肯定的評価は79%（前年度比-2%）でした。学校では生徒の「いじめ根絶」に対する意識を高めるため、道徳の時間において「いじめ」についての話し合い活動等を行っています。

本校は3つの小学校出身者の「出会い」がある学校です。今後はさらにこの「出会い」を生かした「認め合う環境づくり」に注力し、子どもたちの「互いの良さ」を発見する（気づく）力を伸ばすことに努めます。

については、環境づくりの一環として、現1年生の3年生進級時から毎年クラス替えを行うことにしました。

<保護者回答>

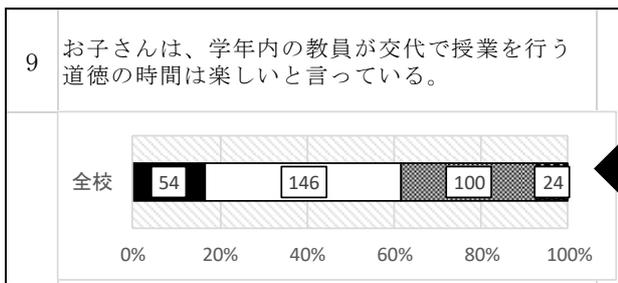


今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を受け、学校行事等の運営に少なからず支障が出ました。しかしながら、この2年間は学校行事の在り方を見つめ直す良い機会となりました。

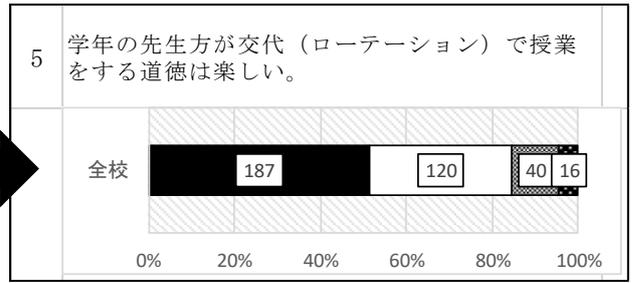
次年度ですが、体育大会については、生徒の出場種目を削減し、平日開催の半日日程で開催します。①本来、体育大会は保健体育の授業で身に付けた資質・能力を発揮する場面であること ②北海道という地域の気候の特性上、どうしても体育大会を運動部の夏季中体連大会前に設定せざるを得ず、例年この時期に生徒に過度な負荷がかかっていることなどからこのように判断しました。

また、感染症の影響を受ける前までは1学期に行っていました1・2年生対象の家庭訪問ですが、懇談内容の充実と受け入れされるご家庭の負担軽減の観点から次年度以降も学校での「二者懇談」という形で5月に実施いたします。

<保護者回答>

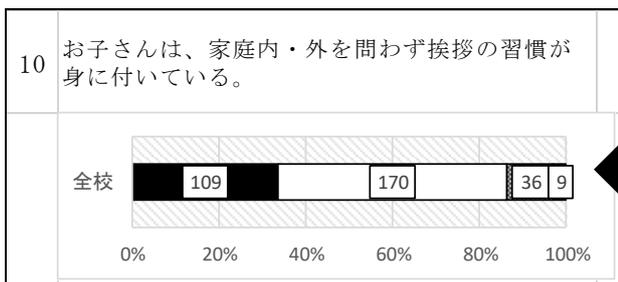


<生徒回答>

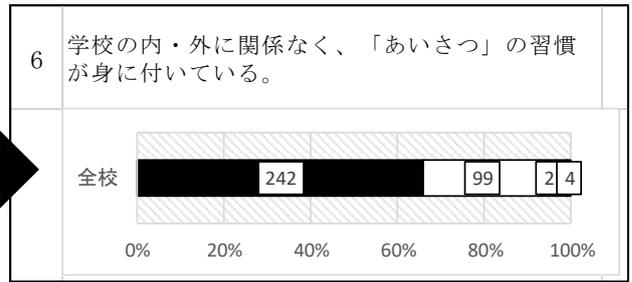


保護者の方の肯定的評価は62%（前年度比-1%）でした。一方、生徒の肯定的評価は85%（前年度比+4%）でした。道徳の授業は、学級担任だけでなく、複数の教員がそれぞれの得意分野を生かしながら、指導にあたるのが求められています。今後も、ローテーションで行うことはもとより、外部講師の活用等、道徳の授業の充実を図っていきます。

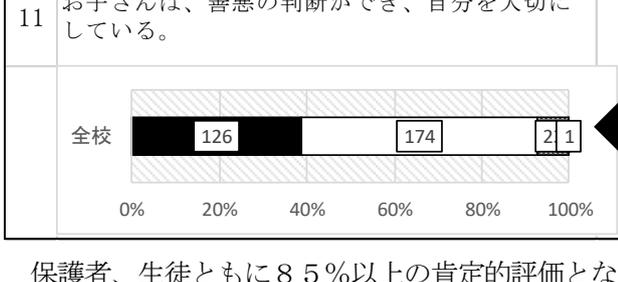
<保護者回答>



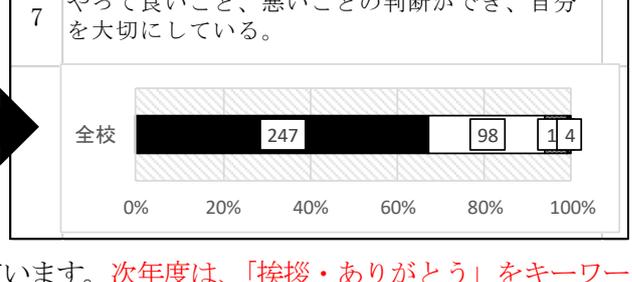
<生徒回答>



<保護者回答>

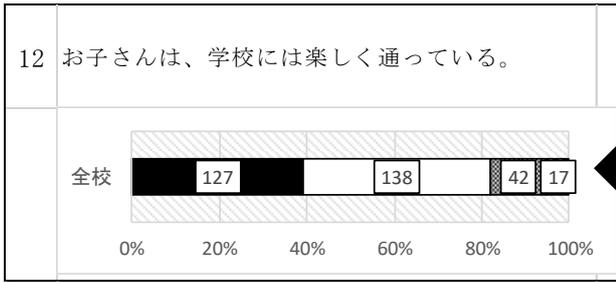


<生徒回答>

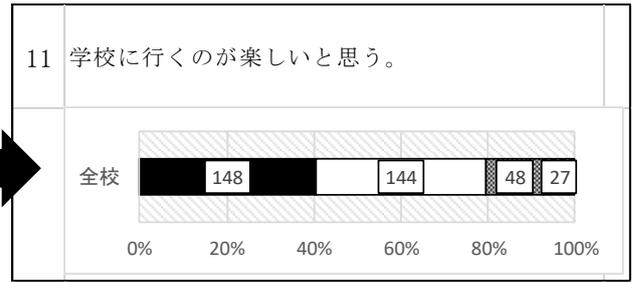


保護者、生徒ともに85%以上の肯定的評価となっています。次年度は、「挨拶・ありがとう」をキーワードに「感謝の気持ちをもつ」ことの素晴らしさをより明確に発信し、子どもたちの学びを支えていきます。

<保護者回答>

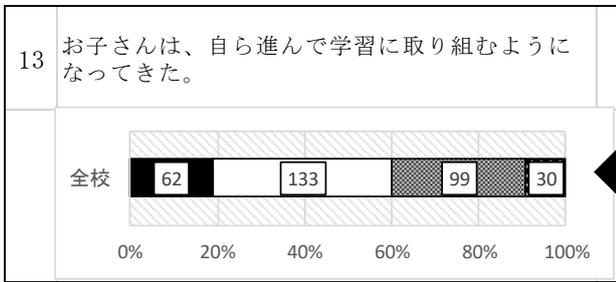


<生徒回答>

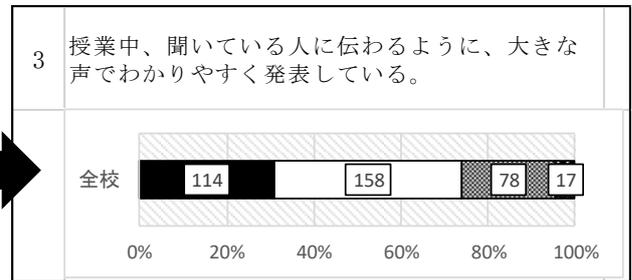
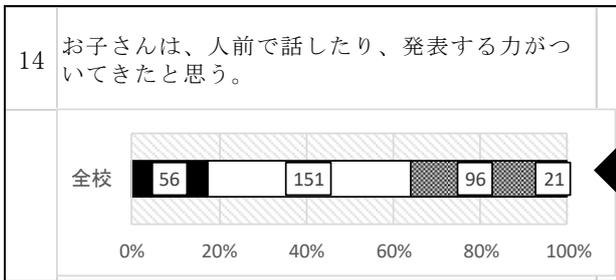
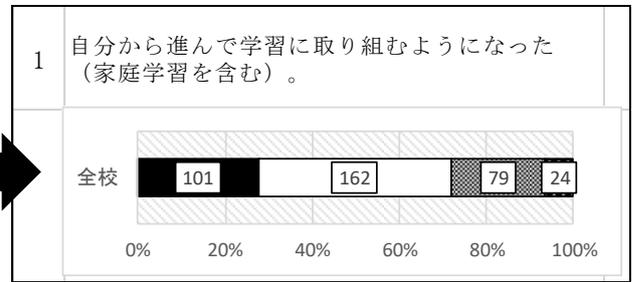


保護者の方の肯定的評価は82%（前年度比-6%）、生徒の肯定的評価は80%（前年度比-14%）となっています。生徒の回答が前年度より大きく落ち込んだ要因として、設問文を変更（昨年度「学校で友達と会うのが楽しい」）ことがあげられますが、いずれにしろ、2割近くの子どもたちが学校生活に魅力を感じていない現実があります。ある意味学校は、「我慢」を学ぶ場ですが、それも学校生活に目的を見いだせてのことです。学校生活の中心は、授業です。各教科の授業の中で、子どもたちが「自己存在感」を得て、「自己肯定感」を高めていけるよう、授業改善に努めていきます。

<保護者回答>

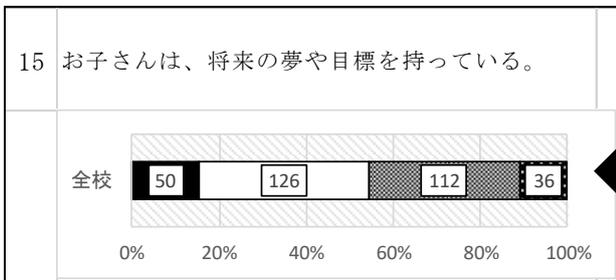


<生徒回答>

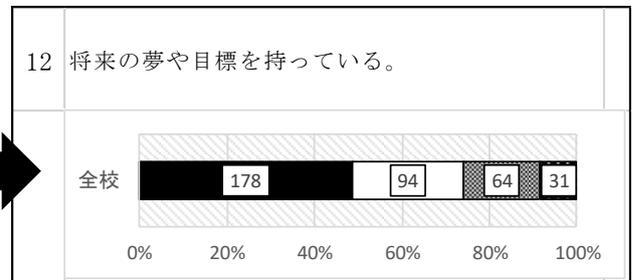


保護者の方の肯定的評価は65%未満、生徒の肯定的評価も75%未満となりました。特に、「自ら進んで学習に取り組む」の保護者回答は前年度比-8%でした。保護者設問12の考察で記載しました授業改善において、生徒による教員の授業評価も活用しながら「(生徒が何を) どのように学ぶか」を重視した取組に努めます。また、家庭学習の成果を発揮できる場の工夫をしていきます。

<保護者回答>



<生徒回答>

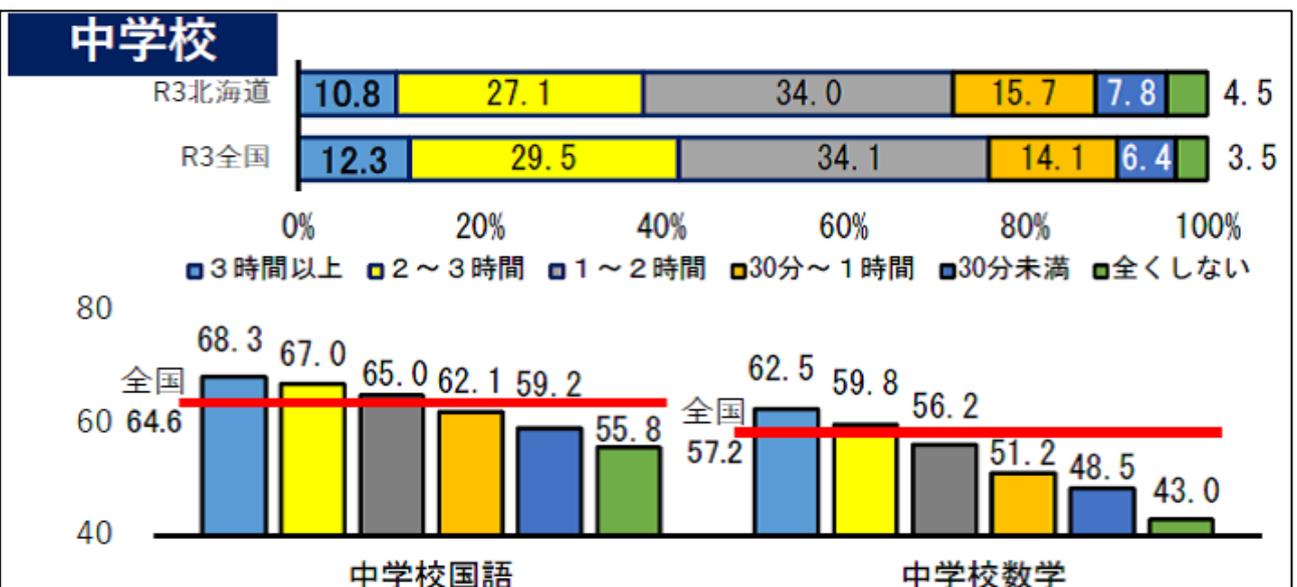
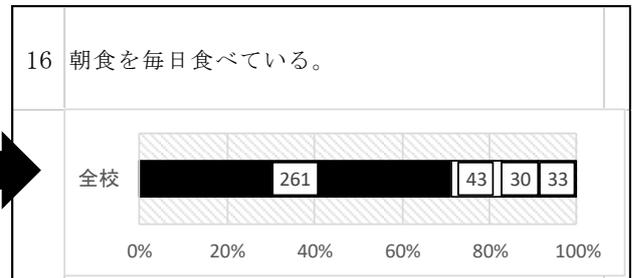
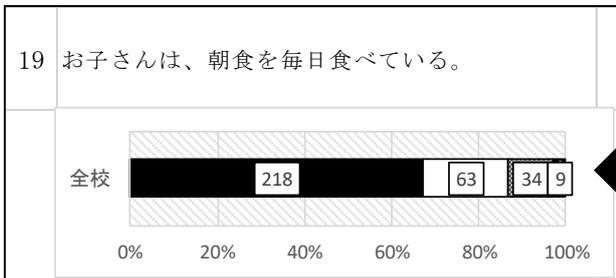
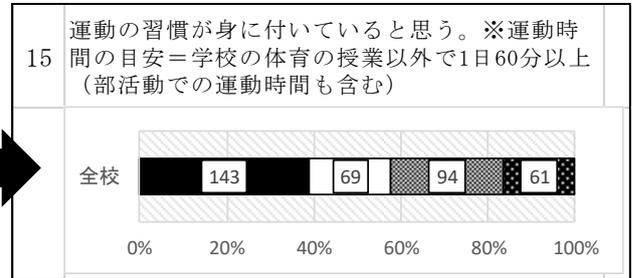
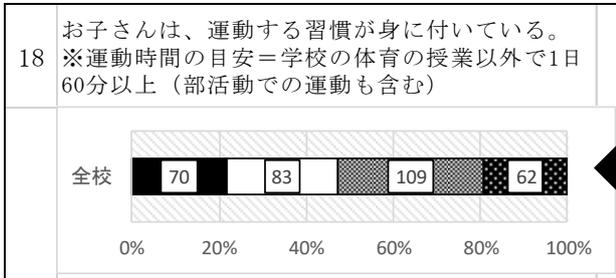
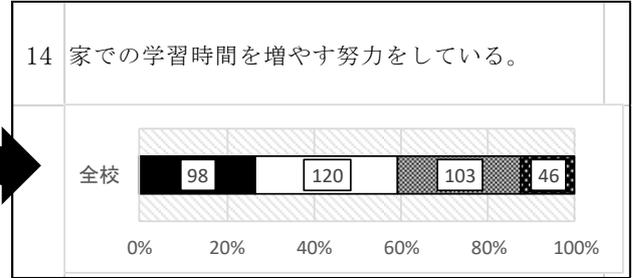
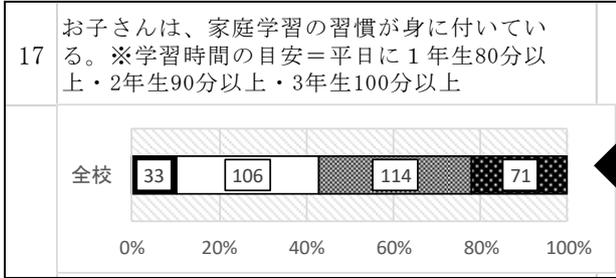
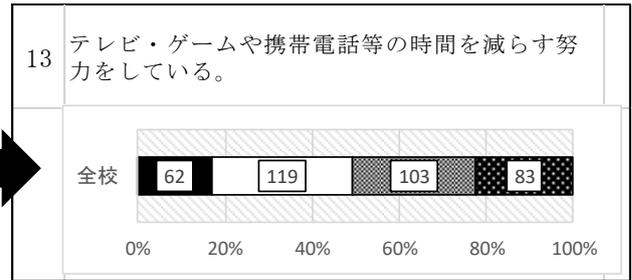
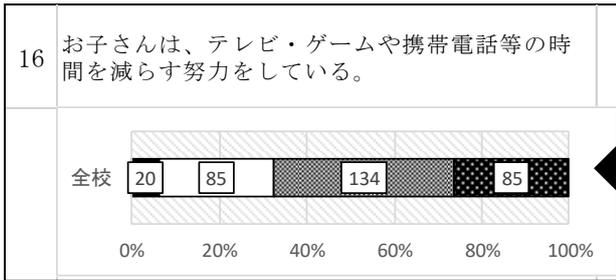


保護者の方の肯定的評価は54%（前年度比-6%）でした。一方、生徒の肯定的評価は74%（前年度比-3%）でした。将来の夢や目標をもつことは、粘り強さや自己有用感の伸長につながります。本校では、総合的な学習の時間の柱に「キャリア教育」を据え、早い段階から職業観を広げることを目指しています。

今後は、「良さ・得意分野を伸ばす視点」から主体的に目標をもち、進路選択できる生徒が増えるよう、個に寄り添いながら「個々の良さ」に気づかせる進路指導の充実を図っていきます。

<保護者回答>

<生徒回答>

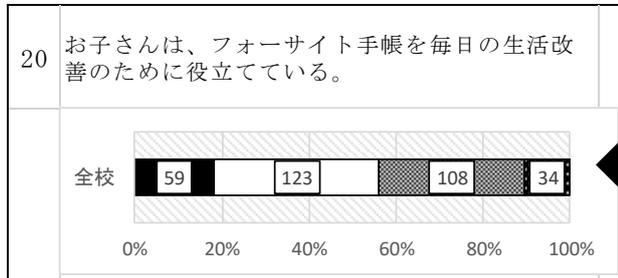


上記グラフは、令和3年度全国学力・学習状況調査における家庭学習時間と平均正答率の相関関係を示したものです。家庭学習の習慣化は学力の向上につながることは明白です。また、メディアの使用時間が長いほど、平均正答率が低いこともわかっています。各家庭での家庭学習しやすい環境整備をお願いいたします。

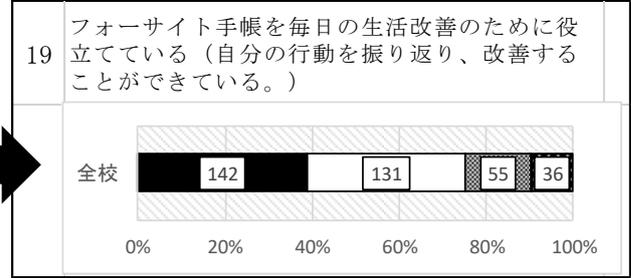
なお、運動習慣の形成も学習に必要な集中力や思考力の向上につながります。身に付けさせたいものです。また、生徒の回答では、朝食を食べていない生徒が17%います。個々の生活リズムもありますが、朝食を食べないと、からだは動いても頭はボンヤリ、ということになりがちです。朝食で脳とからだをしっかりと目覚めさせることが充実した学校生活の土台です。朝食は可能な限り摂取することをお勧めします。

いずれにしても学校だけでは解決できません。各ご家庭での取組をお願いいたします。

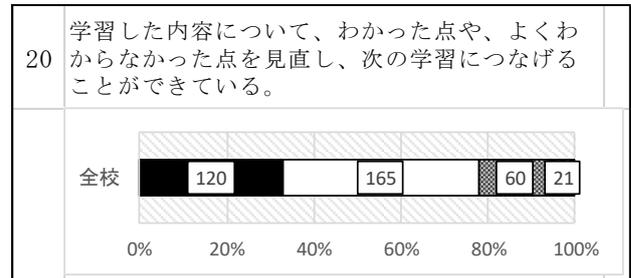
<保護者回答>



<生徒回答>



今年度は、「振り返り」で粘り強く自己調整」をキーワードに、フォーサイト手帳や授業終了時の振り返りを通して、その日の気づきを次につなげられるように支援してきました。今後は、「自分の良さに気づく」ことを重視した「振り返り」の取組を進めていきます。



【自由記述～保護者の皆様よりいただいたご意見～】

自由記述でも多くの皆様から、学校に対する要望や意見、感謝や応援の言葉をいただきました。今後の学校運営の参考にさせていただきます。ここでは、複数寄せられたご要望等を中心に回答いたします。

□生徒指導について

個々の生徒の状況に配慮した指導や格差のない指導について、ご意見をいただきました。子どもたちやご家庭に「なぜこのような指導が必要なのか」という指導の目的が伝わるよう、学年に所属する教員を中心に組織的な生徒対応に努めていきます。また、子どもたちに範を示せるよう努めます。

□感染症の影響を受ける中での学校行事や参観日等の運営について

感染症下での学校行事の運営について、ご意見をいただきました。次年度も感染症の影響は少なからず受けることが予想されます。しかしながら、取組の目的を明確にし、与えられた環境の中で目的を達成するための方法を前向きに考えながら対応していきます。

□部活動の終了時間について

部活動の終了時間が不明確とのご指摘をいただきました。改めて、活動時間の事前連絡等に努めます。ただ、場合によっては、活動時間が多少延びる場合もあります。想定される帰宅時間を過度に過ぎ、ご心配な場合は、在校確認をしますので、学校にお知らせください。

□その他

- ・荷物の軽量化について→学校に置いていって良い学習用具の見直しを進めます。
- ・部活動再登校時の自転車利用について→次年度の旧体育館解体工事終了後に再検討します。
- ・ジャージ登校日の増加について→制服が基本のTPOを意識した服装指導へのご理解をお願いします。

アンケート結果や校内における自己評価に基づき、令和4年度は以下を基本方針に教育活動を展開します。

<15歳の目指す子ども像 「良さを伸ばし、社会と向き合える生徒」>

- | | | |
|------------|----------------|---------------|
| 1. 学び続ける生徒 | 2. 感謝の気持ちをもつ生徒 | 3. 自己肯定感をもつ生徒 |
|------------|----------------|---------------|

キーワード：「良さを伸ばす」視点に立った教育活動の充実

各ご家庭のご理解とご協力をお願いいたします。